



第725号 平成28年2月25日

陸上自衛隊 北部方面隊広報紙 発行：北部方面隊総監部広報室

総監要望事項

応 磨 頼 即 錬 信

北部方面隊 ホームページ http://www.mod.go.jp/gsd/nae/index.html

道東地区において日米共同訓練を実施

日米相互の連携要領及び相互運用性を向上

方面隊は、1月26日から2月6日までの間、第5旅団長（正木将補）を日側の担任官として、また、第3海兵機動展開部隊第3海兵師団長（リチャード・L・シムコック少将）を米側の担任官として、道東地区の矢白別演習場及び然別演習場において、北部方面隊及び米海兵隊の部隊が、

共同して作戦を実施する。場合における連携要領を、実行動により訓練し、相互運用性の向上を図ることを目的として、日米共同訓練（国内における米海兵隊との実動訓練「フォレストライト02」）を行った。方面隊から第5旅団隷下の第27普通科連隊長（田中一佐）は「連隊は、本訓練において相互に

「教えかつ学ぶ」ことを目標に訓練のみならず、文化についても交流を図り、目標を達成する所存である。機能別訓練、総合訓練を通じて作戦・戦闘に関する相互のノウハウを教えかつ学びあうことを期待する」と訓示し、

1月26日、日米双方の訓練実施部隊の隊員が整列する中、訓練開始式が行われ、第27普通科連隊長（田中一佐）は「連隊は、本訓練において相互に



海兵隊の射撃支援に任ずる90式戦車

日米小隊長による調整

1月27日から2月2日までの間、指揮機関訓練が行われ、第5旅団司令部と第5海兵連隊本部及び日米双方の隷下部隊との共同による指揮幕僚活動の中、「日米共同作戦計画」を策定した。

同期間、並行して行われた、機能別訓練では、第27普通科連隊の各中隊と第5海兵連隊第3大隊の各小隊との共同による市街地戦術訓練、戦術射

撃、迫撃砲射撃訓練、ヘリボン訓練、第一線救護訓練、日米対抗訓練等を実施した。

2月3日から5日までの間は、総合訓練が行われ、日米両部隊共同による陣地攻撃を実施した。

3日早朝から情報小隊等による情報活動の後、日米の前衛中隊により敵の警戒部隊の駆逐を開始し、夜間に至るまで警戒部隊に対する攻撃は継続された。

4日早朝、態勢を整えた日米両部隊は、再び敵の警戒部隊に対する攻撃を行い、これらを駆逐した後、敵の主戦術地域を解明し、明朝の主力による攻撃に備えた。

5日早朝、敵の主戦術地域に対し、日米両部隊が中隊並列による攻撃を開始し、敵の主力を撃破し、急急防衛態勢を整え、敵の逆襲に対処し、総合訓練を終了した。

この一連の行動を通じて、日米双方は相互の連携要領や相互運用性の向上を図るとともに、信頼関係を構築することができた。

また、機能別訓練実施中の2月1日、指揮機関訓練、車列警護訓練、ヘリボ



ホームビジット

第11旅団第18普通科連隊が 冬季連隊練成訓練を実施

冬季における段階的な訓練により冬季の任務遂行の能力を向上

第11旅団隷下の第18普通科連隊は、1月7日から15日までの間、各中隊計画による冬季の連隊練成訓練を1月25日から27日までの間、冬季連隊野営訓練を北海道大演習場において実施した。

第18普通科連隊は、例年さつぽろ雪まつりや雪像制作を担当していたが、昨年から雪像作成数の減少に伴い、本年度は、冬季練成訓練に専念できる年度となった。

今回の連隊練成訓練は、冬季における隊員の基礎動作及び部隊の基本的行動「スキー装着下の各種地形に応じた射撃要領」を主要演習項目として行われた。

1月7日から15日までの間は、連隊の統制下で各中隊ごと、スキー行進訓練、雪上車による曳行訓練、スキー訓練、リベリング訓練、第一線救護、迫撃砲の射撃等を行い、冬季における各々の基礎動作及び中隊以下の基本的行動を段階的に演習した。

1月25日から27日の間に、冬季連隊野営訓練では、2夜3日の連続状況下で冬季における陣地攻撃の場面を演習した。

25日夕刻から26日早朝にかけて約30kmのスキー行進により、前進を開始し、集結地域を占領した連隊主力は、情報小隊により、敵情を解明す



連隊命令下達

小隊小隊による攻撃前進

総監部着任将官紹介

総監部幕僚長



陸将補 いさかい すすむ 飯盛 進

昭和37年11月9日生
 幹候85期（防大29期）
 長崎県出身
 平成20年3月 第7高射特科連隊長 兼 静内駐屯地司令
 平成21年7月 陸上幕僚監部人事課 厚生課長
 平成23年8月 第1高射特科団長
 平成25年3月 高射学校長 兼 下志津駐屯地司令
 平成27年3月 東北方面隊総監部 幕僚副長
 平成27年12月 現職

～完成した各まつり会場の冰雪像～



第 67 回さっぽろ雪まつり 大通り 7 丁目大雪像「マカオ聖ポール天主堂跡」



第 67 回さっぽろ雪まつり 大通り 4 丁目大雪像「進撃の巨人、サッポロ襲来！」



第 53 回おびひろ氷まつり 大氷雪像&すべり台「頑張るスケーター」



第 58 回旭川雪まつり メイン雪像「あさびーランドへようこそ」

道内各地で冬のイベント真つ盛り

冬季の祭りに協力

冬本番を迎え、道内各地の各部隊、各駐屯地が冬季の祭り等において、雪像制作等の協力を行っ

た。北海道ならではの冬季のまつり支援は、雪(氷)像制作、滑り台製作等が

主流であり、北海道では最も気象条件の厳しい、1月初旬から2月上旬の約1カ月間、道民の皆様

が楽しめる場を提供するための一助として、毎年行われている。制作期間中、地元市の町長や協力団体、住民の方々の慰問や激励を受け、隊員たちは寒さに負けず、それぞれの期日までに完成させた。

また、期間中には、開会式等の音楽演奏、進行支援などを行い、それぞれの祭りを大いに盛り上げた。玉として、多くの集客に多大に貢献した。本期間を通じて、隊員も地域の皆様と一体となつて貴重な経験を待た。また、期間中には、開会式等の音楽演奏、進行支援などを行い、それぞれの祭りを大いに盛り上げた。

～冬季祭り各冰雪像制作風景～



おびひろ氷まつり (第4普通科連隊)



旭川雪まつり (第2特科連隊、第2後方支援連隊、第2高射特科大隊、第2施設大隊、第2通信大隊)



大通り 7 丁目 (北部方面通信群)



大通り 4 丁目 (第11特科隊、第11偵察隊、第11高射特科中隊)



大通り 5 丁目「氷の広場」での合同演奏

在日米陸軍音楽隊及び北部方面音楽隊は、2月9日、第67回さっぽろ雪まつり大通会場において、合同演奏を行った。合同演奏会は、一昨年から行われ、今回で3回目となる。今年、在日米陸軍音楽隊から7名、北部方面音楽隊から4名が参加し、11時から11時半の間、大通5丁目において、当初、米陸軍音楽隊による単独演奏を行い、その後、映画7人の小人の挿入曲から「ハイホー」、そして同じくライオンキングの挿入曲から「サークル・オブ・ライフ」の2曲を



日米演奏者の記念撮影

米陸軍音楽隊と北部方面音楽隊との合同で演奏し、約300名の聴衆を魅了した。さっぽろ雪まつりは、道内外及び国外の観光客の延べ人数において約242万人を越える集客数を誇る北海道で最大規模のイベントであり、本合同演奏会を通じて、在日米軍及び自衛隊に対する親近感を更に向上させるとともに、日米相互の理解促進を図ることができた。

在日米陸軍音楽隊と北部方面音楽隊の合同演奏

本年もさっぽろ雪まつりに花を添える

北部方面隊史

我らここに初めて 國安らかなり

第6回

警察予備隊時代その3 (成長)

創設期における幾多の困難を乗り越え、形式上の態勢が整った警察予備隊であったが、逐次実力部隊としての基盤を確立するための様々な努力を傾注していた。

予備隊本部は、部隊育成のための諸規定の制定や計画の立案を急ぎ、治安部隊としての体制並びに陣容強化に努めた。

一方、部隊は総監統率の下、創設業務に専念し、昭和26年5月頃から、ようやく本格的な活動を開始できることが出来た。

北部方面隊の前身である第2管区隊は、昭和25年から26年にかけて、恵庭、苗穂、函館、帯広、遠軽、美幌、札幌の各地に駐屯地が開設され、それぞれ部隊・隊員を受け入れた。また、米軍と協同使用していた真駒内及び東千歳の米軍キャンプは、第2管区に移管され、26年4月に廃止された。そして、同年5月1日に第2管区はその編成を完了した。

第2管区隊の完結当時の編成は、管区総監部及び付中隊等(旧札幌、現在の苗穂分屯地)、普通科4連隊(帯広、内1個大隊遠軽)、普通科5連隊(函館)、特科62連隊(美幌、内1個大隊帯広)、第2施設大隊(美幌)、第2偵察中隊(美幌)、第2衛生大隊(帯広)、第2武器中隊(恵庭)、第2通信中隊(恵庭)人

員1万752名であるとの記録がある。また、同時に管理補給隊が、第110補給大隊(帯広)、第710武器整備大隊(帯広)、第821救急病院(美幌)、第822救急病院(函館)の部隊をもって編成完了した。

この後、管区総監部は、昭和26年12月1日に開設された現在の札幌駐屯地に移駐を完了し、旧札幌駐屯地は、苗穂分屯地に改称された。同年12月26日には、管区総監部庁舎(現在の北部方面総監部庁舎)の開庁式と隊旗授与式を行った。また、時を同じくして、編成完了当時それぞれの駐屯地で編成した部隊の一部は、各駐屯地等に移駐している。さらに、昭和27年1月、苗穂分屯地において北海道補給処が臨時編成され、第110補給大隊、第710武器整備大隊が編成された。

当時の各種装備品の調達、補給は重要な問題点の一つであり、当面の教育訓練に即応するため、主要装備品は米軍の支援によって充足し、それ以外、国家地方警察や総司令部顧問機関が緊急調達を実施していた。昭和26年4月、総司令部顧問機関から部隊の編成に必要な装備品が確定し、管理補給部による補給系統が確立された。その後、主要装備品を除き、各種装備品が隊員に概ね貸与された。武器の貸与状況

は、創設初期は騎銃であったが、その後、小銃、機関銃、ロケット発射筒、迫撃砲等も逐次整備された。また、一部の部隊には火砲、特車(戦車)等が装備されたが、これらは全て米軍から借用していたものであった。この武器貸与の方法は昭和29年3月の日米相互援助協定が締結されるまで行われた。

教育訓練は、昭和26年1月から、段階的に実施され、当初は、基本教練にはじまり、分隊、小隊、中隊訓練が10月には、大隊以下の訓練として、学校による研究展示演習等によって米軍教練に準拠する訓練が普及された。そして昭和27年には、7月を以て、中隊、大隊訓練が完成され、9月には、連隊作戦の各種状況に即応する戦術、補給及び管理業務が野外で実施されるに至った。第2管区隊の教育訓練は、昭和26年5月に編成完了された後、同年9月に支笏湖において、管区隊総合演習を実施した記録が残っている。

昭和26年の年頭、マンカサー総司令官は、我が国の自衛力増強の必要性を論じ、同年1月、米大統領特使の国務長官が来日し、対日講話条約の予備交渉が正式に開始されていたが、同年4月、マンカサー総司令官が解任され、当時朝鮮戦争の最中の米第8軍司令官リッジウェイ中将が新たに任命された。解任の理由は、朝鮮戦争の方策に関する相違であるとされている。

突然の解任に日本側が動揺する中、対日講和条

北の駐屯地 その歩み

第24回 幌別駐屯地

幌別駐屯地が所在する登別市は、太平洋に面し、北海道の中では比較的温暖で雪の少ない地域で、全国的にも有名な登別温泉・カルルス温泉のほか、1日1万トンもの多種類の温泉が湧き出す地獄谷、日本重要湿地にも選定されているキウシト湿原など、自然に囲まれた風光明媚な町です。また、のぼりべつクマ牧場、登別マリナーパークニクス、

約の促進と日本に対する基本政策に変更がない旨の公文書が手交され、同年9月、対日平和条約及び日米安全保障条約が調印された。

第2管区隊は、昭和25年の仮部隊編成を経て、昭和26年に、開設間もない各駐屯地において編成を完了したが、当時の政府は昭和26年度末に自衛力の増強に伴う警察予備隊の改編について大綱を協議し、同年9月の対日平和条約及び日米安全保障条約調印による我が国の主権回復に伴い、占領軍の撤収後の自国の防衛体制を考慮し、我が国の独立回復後における警察予備隊の任務の明確化及び警察予備隊の定員数を11万人と定め、日米共同防衛体制への足固めを行っていた。

そして、昭和27年8月1日警察予備隊と海上警備隊を統合して、保安庁が設置され、部隊は保安隊と改称される。警察予備隊の任用期間の関係上、保安隊は、同年10月15日に発足となった。

駐屯地開設当初は、小中学校のグラウンド整備や生活道路整備、渡河ボートによる水害の避難支援や、市内各種イベント参加、記念日の駐屯地開放や、演習場を開放してのウサギ狩り(通称「ラビント作戦」、地元の子供たちの栄養不足を補う目的で実施)で地域住民の理解を深め、現在では地元根付いた駐屯地として、広く市民に親しまれています。

幌別駐屯地は西胆振地域の要所として、樽前山や有珠山が噴火した際の災害派遣部隊の活動拠点として重要な役割を担うとともに、基幹部隊である第13施設隊は、隊区担任部隊である第71戦車連隊が到着するまでの初動対処の任務にあたります。地元の登別においても行方不明者捜索、河川氾濫等による水害、風雪による大停電など、様々な災害派遣に従事し、市民の安心・安全に寄与してきました。

また、これまで駐屯地所在部隊から、カンボジア、ルワンダ、ゴロン高原、東チモール、イラク、スマトラ沖地震、ハイチ、南スーダンでの国際平和協力活動等に、延べ296名の隊員が参加するとともに、災害派遣では、阪神淡路大震災、豊浜トンネル崩落事故、有珠山噴火災害、東日本大震災などの大規模自然災害において、



南三陸町復興祭に参加した「北海自衛太鼓」



開設当初の駐屯地

特有の施設力を発揮して、任務を全うしてまいりました。

また、幌別駐屯地は、自衛太鼓のメッカでもあり、全国自衛太鼓が引きます。「北海自衛太鼓」は、昭和40年8月、隊員の士気高揚と市民との連携を目的として発足以後、北部方面音楽まつり・自衛隊音楽まつりにはもちろんのこと、札幌冬季オリンピック、洞爺湖サミット歓迎セレモニーなどの各種内外行事、また、PKO派遣先のカンボジア、東チモール、南スーダンなどでも演奏し、国内はもとより、海外においても隊員の士気高揚と各国国連職員及び現地住民等との文化交流に貢献してきました。また、東日本大震災での派遣先であった南三陸町の「復興祭」でも太鼓演奏を披露して被災された方々を勇気付ける一翼を担いました。昨年、創部50周年を迎え、その演奏回数は約7000回を数えます。

駐屯地は、昨年末には新しい庁舎も完成し、来年度末には部隊改編が予定されていますが、全隊員が駐屯地司令要望事項である「一致協力」「規律厳正」を胸に、いかなる任務にも即応し、国民の信頼を得られる部隊・駐屯地であり続けられるよう、日々精進してまいります。

人生に潤いを与える言葉

『菜根譚』の語る人生は、迷いが生じたら直ちに気づいて改めることを解り易く述べています。

一たび起こりて便ち覚り、
一たび覚りて便ち転ず。
此れは是れ禍を転じて福と為し、
死を起こして生を回(かえ)す開頭(かんとう)なり。

(『菜根譚』・前集 86)

即ち、「一念の心が(非の方)に向かっていると覚(せい)いたら、(直ちに)方向を(良い方)に向かわせるのである。これは禍を転じて福となし、死を翻(ひるがえ)して再び生に回(かえ)す絶好の機会である」と云うのです。

つまり、世に云う「禍福生死」の瀬戸際であり、うっかりと見逃してはならないと語っているのです。
人生には、突如として岐路の遭遇することがあります。

その時の咄嗟(とっさ)の気づきこそが人生にとって極めて大事な時刻(カイロス)なのではないでしょうか。

(カイロスとは、ギリシア語で人間の主観的な時間を表す言葉です)

心健康相談 メンタルヘルス・カウンセラー
根本 和雄



北桜会 (第4期方面隊オピニオンリーダー) 白崎 修一

北桜会員としての思い

平成22年4月に北部方面隊オピニオンリーダーを拝命し、以来、2期4年間にわたり陸上自衛隊の多くの活動に参加させていただきました。平成26年3月には大変名残惜しくも北部方面隊オピニオンリーダーを卒業しましたが、だからと言って自衛隊との関係が無くなったわけではありません。すぐに北部方面隊オピニオンリーダー修了者の会である北桜会、さらには陸上自衛隊北部方面総監部協力会であるN. プリーズの会員にさせていただきました。

最近の南沙諸島での東アジア諸国の動き、地理的なもの以上に複雑な北朝鮮やロシアとの関係、そして、中東での紛争に絡むヨーロッパにおける難民受け入れなど、わが国として平和を誠実に希求しているだけではないいけない、ただならぬ事態が世界では起こっています。

縁もゆかりもなかった私がこうして北部方面隊のお仲間させていただいて、一人の日本国民として国防の重要性、わが国のこれからの進む方向性などに深く興味を持つことができるようになったことに改めて感謝申し上げる次第です。

【札幌秀友会病院 副院長】

平成27年度防衛省共済組合 北部方面統括支部長表彰

優秀支部に函館支部

防衛省共済組合北部方面統括支部は、平成27年度防衛省共済組合北部方面統括支部長表彰を実施し、函館支部(支部長山本2佐)が優秀支部に選

ばれ、平成27年12月11日、総監部において表彰状及び副賞が授与された。本表彰は、福利厚生の実施策を積極的に推進し、共済組合業務の的確な運営に寄与した功績が顕著であった支部に対して、統括支部長(総監)が授与するものである。函館支部は、大規模災害時における派遣従事

隊員等への函館駐屯地売店親交会による支援に関する協定(後払い可能)の委託先店の営業、訓練部隊等の宿泊に伴う休日の委託先店臨時営業、委託先店ポナスセール及び車両展示会等、組合員の要望をくみ上げ、利便性向上を図った。また、新規の割引協定施設2件の開拓と組合員家族を対象とした共済セミナーの開催により組合員家族に対する利用促進に努めた。函館支部は7年ぶり5回目の受賞。

防衛省共済組合本部長表彰
陸上幕僚長表彰
陸上幕僚長表彰
陸上幕僚長表彰
陸上幕僚長表彰
陸上幕僚長表彰
北部方面統括支部長表彰

丘珠支部
美幌駐屯地地業務隊
北千歳駐屯地地業務隊
鹿追駐屯地地業務隊
安平弾薬支処
函館支部

の顕著な功績により、美幌駐屯地業務隊、北千歳駐屯地業務隊、鹿追駐屯地業務隊及び安平弾薬支処の4コ部隊が陸上幕僚長表彰を、12月8日には共済組合業務の顕著な功績により、丘珠支部が防衛省共済組合本部長表彰を受賞した。



防衛省共済組合本部長表彰 丘珠支部



北部方面統括支部長表彰 函館支部



陸上幕僚長表彰 北千歳駐屯地業務隊



陸上幕僚長表彰 美幌駐屯地業務隊



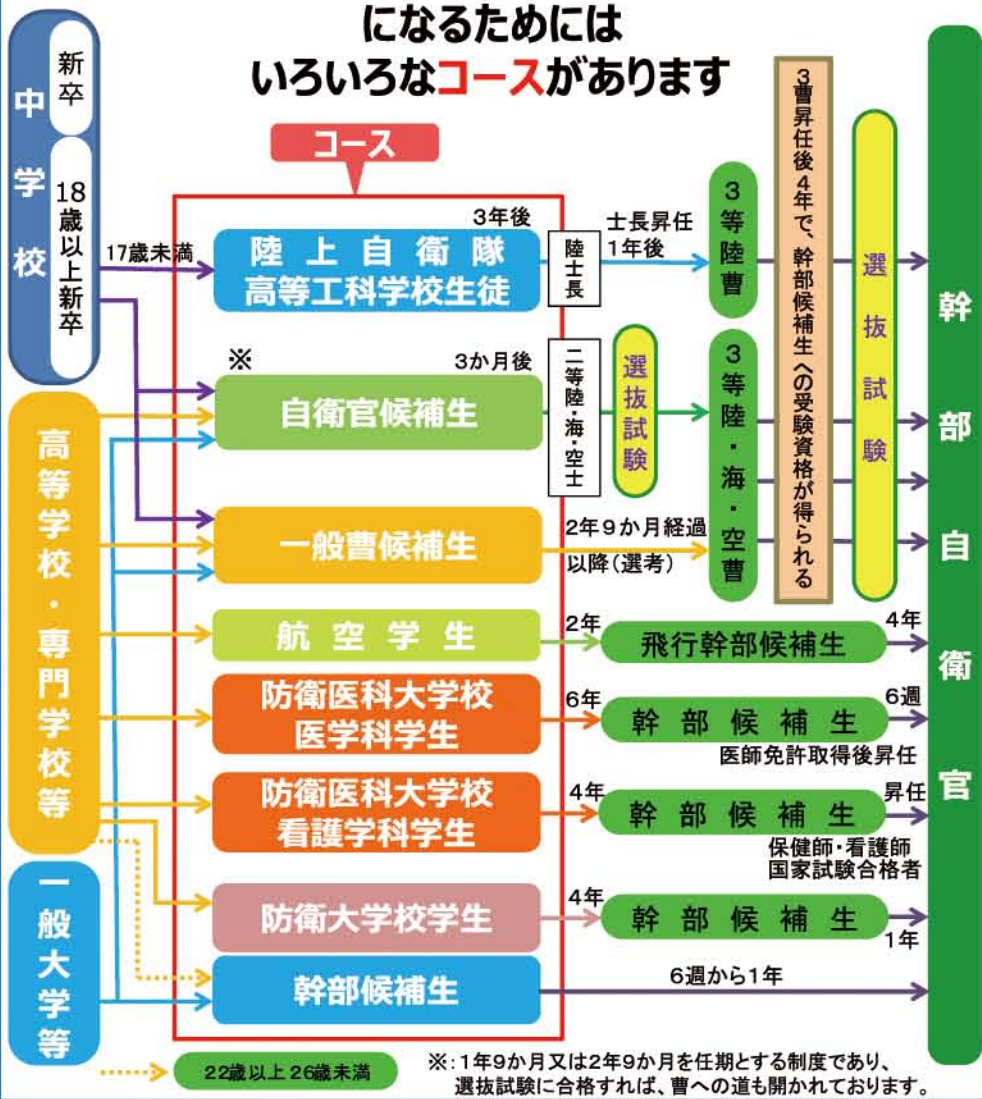
陸上幕僚長表彰 安平弾薬支処



陸上幕僚長表彰 鹿追駐屯地業務隊

自衛官

になるためには
いろいろなコースがあります



志願者情報を獲得せよ!

小さな情報でもかまいません、情報提供を!



我々の仲間は 我々の手で

充足率向上は
皆さんの一人一人の手にかかっています



動機のトップは
「親戚・友人からの情報」
という事実!



- 問合せ先(専用線)
- 札幌地方協力本部 8-11-4502(募集課)
 - 旭川地方協力本部 8-16-3494(募集課)
 - 函館地方協力本部 8-124-405(募集課)
 - 帯広地方協力本部 8-18-2704(募集課)

- 自衛官候補生(男子)**
募集期間:年間を通じて募集
- 予備自衛官補**
募集期間:平成28年1月8日(金)~4月8日(金)
- 一般幹部候補生**
募集期間:平成28年3月1日(火)~5月6日(金)

平成28年が明けて、約2カ月、本年最初の「あかしや」の発刊となりま

編集後記

2カ月、本年最初の「あかしや」の発刊となりま